

史料群名	はつしま 初島史料	旧所蔵者	(田中篤太郎)
探訪時住所	静岡県熱海市初島		
現在の住所	静岡県熱海市初島		
探訪年月	昭和26 (1951) 年5月		
史料の年代	天明2 (1782) 年～昭和16 (1941) 年	史料の 総点数	1515点
年代の内訳	近世 3点/近代 1512点	筆写稿本	なし
既刊行目録	「平成十四年 水産総合研究センター所蔵古文書目録-初島史料 (静岡県熱海市初島) - 水産総合研究センター・神奈川大学日本常民文化研究所」		

収蔵にいたる経緯

当時の調査記録によると、初島の調査は昭和26年5月に行われ、初島漁業協同組合を初め複数の旧家・寺院などを訪れている。史料の一部は借用あるいは寄託の手続きがとられたが、その中に「初島史料」と題された史料群の記録はない。史料の大半は初島で水揚げされた海産物を東京の魚市場で売り捌く際の仕切書あるいはそれに類する諸帳簿で、初島で水産物の取引・運搬に従事した家に伝来した史料群であろうと考えられる。複数の家文書が混交している可能性はすくない。一方探訪書類には、初島の魚商関係史料群として「田中篤太郎家文書」の名があり、初島の水産物取引に古くから従事していた田中家が上久商店を営んでいることも分かっている。これらの状況を勘案すると、本史料群は田中家に伝来し、探訪当時の当主田中篤太郎氏から寄託された史料群であろうと推定される。

史料群の概要

初島は現在静岡県熱海市に属し、周囲約3km前後の小島である。近世は伊豆国賀茂郡初島村で、明治22年に熱海村に含まれ、明治24年に熱海町、昭和12年に熱海市となった。

史料の大半が明治中期から昭和戦前期までの水産物の取引に関する諸帳簿・仕切綴である。このことは、本史料群が初島の村方文書ではなく、個人の家伝に伝来した経営関係文書であることを示しており、初島村の生業や村政に関する総括的な情報を伝えるものではない。

仕切書の宛先は、大半が東京日本橋の魚問屋である。初島の漁獲は、田中家を通じて日本橋の複数の問屋に流れていたと考えられ、おそらくこのような関係は近世以来のものであろう。また、仕切書には水揚げされた漁獲物の名も書かれており、大正前後の初島の漁況を知る材料ともなる。

なお、本史料群の詳細については「水産総合研究センター所蔵古文書目録」を参照していただきたい。

